

# はしもと

## 〈病院理念〉

地域に根づいた患者様に信頼される病院づくり

## 〈基本方針〉

～心のかよう病院を目指して～

患者様のため、まごころの医療を目指します  
地域の皆様から信頼される病院づくりに努めます  
常に新しく良質な医療ができるように心がけます  
皆様の健康増進、疾病予防のお役に立ちたいと願っております

## 〈病院運営のコンセプト〉

1. 気づきの医療
2. わかりやすさ



## 新年挨拶

新年あけましておめでとうございます。

地域のみなさまに支えられ医療法人社団和風会は昨年40周年を迎え、今年から50周年に向かっていきます。当法人の理念は「気づきの医療」です。次の10年のために改めてこの理念を立ち上げた経緯をお話したいと思います。



現在、当院の入院機能は「回復期リハビリテーション病棟」と「認知症治療病棟」ですが、以前は一般病棟と精神病棟でした。25年ほど前に訪問診療で患者さんの家に行くと、歩いて外来に来ていた人が入院して退院すると、寝たきりになっていることがありました。病院が寝たきりを作っている！何とかするにはリハビリをしなければいけないのではないか、という気づきです。また他の家では、認知症のおばあさんが夜間に徘徊するからと部屋に鍵をかけて閉じ込められていました。衝撃の気づきでした。それらの経験から、この地域に必要な病棟は「リハビリテーション病棟」と「認知症治療病棟」だと思ったのです。このように患者さんや地域から気づかされたことが「気づきの医療」という理念のはじまりです。

新型コロナウイルス感染症が世界を震撼させてから3年目を迎えます。当院もクラスターを経験し、大変な思いをしました。しかし、その経験から「コロナ病床」を開設でき、他の施設にサポートに行けるスキルを身につけることができています。

また今年も、6回目の病院機能評価の審査を受ける予定です。30年前に日本で17番目、香川県では最初の機能評価取得病院となり、ずっと継続できていますから、今回もきっと大丈夫だと思います。このように橋本病院は誇りに思えるような努力を積み上げてきた病院です。これからも地域になくてはならない病院として貢献、発展していきたいと思えます。



医療法人社団和風会  
理事長 橋本康子

## 新年挨拶

新年明けましておめでとうございます。

当院は、平成元年（1989年）2月に豊浜町より新築移転し、一般病棟49床、精神病棟65床にて診療を開始して以来、地域住民の皆様を支えられ、また、病院職員の弛まない努力により、実に34回目の新春を迎えることができました。



この間、病院は、医療に対する社会の要請に応えながら、基本理念である「地域に根づいた患者様に信頼される病院づくり」の実現に向けて、改編・増床・増設を重ねてまいりました。そして現在では、回復期リハビリテーション病棟89床、認知症治療病棟67床に加えて、居宅介護支援事業所・通所リハビリテーションセンターはしもと・訪問リハビリテーションセンターはしもとを併設し、超高齢化社会に対応した良質な慢性期医療機能の提供と効果的な地域包括ケアシステムの構築に努めています。

より良き歴史と伝統は、人から人へ、世代から世代へ引き継がれ形成されていくものであります。私たち橋本病院職員は、常に、先達の努力に思いを馳せつつ、心をついにベクトルを合わせ、地域住民の皆様を支え、皆様からは「我が町の病院」と支えられ、「橋本病院があるから、安心して暮らせます」と言ってもらえる、真の意味での「信頼される病院」を目指してまいります。

どうか、皆様には、これまでも増して、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。院長としての新年のご挨拶とさせていただきます。



医療法人社団和風会 橋本病院  
病院長 塩谷 泰一

## 回復期リハビリテーション病棟

### ～さまざまな下肢装具について～

当院では、①身体機能面に対するリハビリ ②日常生活に対するリハビリ ③福祉用具の選定 ④装具の提供などがあります。その中で脳卒中を発症された方の多くは、足にうまく力が入らなかったり、無意識に力が入り足が硬くなってしまうなどの症状が出ます。それにより、車椅子への乗り移りや歩きにくさなど、日常生活を阻害してしまう場合があります。今回はそのような場面で使用する下肢装具をいくつか紹介します。

下肢装具は、足の様々な機能の回復や機能低下防止等を目的として用いる器具のことをいい、様々な種類があります。治療の手段の一つとして使う治療装具、障害が固定した後の日常生活動作の向上のための更生用装具などに大きく分けられます。

#### ◎ブレースクリニック

回復期リハビリテーション病棟では、装具を作製する際、医師・セラピスト・義肢装具士で話し合い、患者様の身体機能に合った装具を提供しています。

#### <主な種類>

長下肢装具



短下肢装具



プラスチック短下肢装具



※ 装具を作製する際は、医師の指示が必要です。外来にて相談を受け付けています。

### ～歩行器について～

#### 歩行器を使うことのメリット

- ① 体重を一部預けることで、足にかかる負担を減らす  
→ 足腰に痛みがある場合や筋力が低下している場合、歩行器や歩行車に少し体を預けると体重が分散され、弱った部分への負担を和らげてくれます。
- ② 体のバランスを保ち、安定して歩けるようになる  
→ ご高齢になると運動機能や神経の反応速度が低下し、ふらつきやすくなります。歩行器・歩行車を使うと体重を支える面積が広がり、姿勢が安定するようになります。



介護保険をお持ちの方は、歩行器や杖などをレンタルすることもできます。

キャスター付き四脚歩行器



ハッピーⅡ



前腕支持型歩行器



## 認知症治療病棟

### 認知症を知る

### “レビー小体型認知症”について



#### 1) レビー小体型認知症とは（認知症の4.3%を占める）

レビー小体とは脳内にできる特殊タンパク質です。レビー小体が脳皮質や脳幹と言われる場所にたくさん集まることで、脳内の神経細胞が壊れて減少する為、情報を上手く伝えられなくなり、認知症の症状が起こります。

#### 2) レビー小体型認知症の特徴的な3徴

- ① 認知機能の変動 ② 繰り返し出現する幻視 ③ パーキンソン症状

#### 3) レビー小体型認知症の方への対応の仕方

- ① 状態を考えて、できない時はできない（時には介助が必要）と理解して関わりましょう。  
② 幻視に対しては嘘ではなく、本人には見えている為、否定しないようにしましょう。  
③ 動作がゆっくりでも急かさないようにしましょう。

#### 4) 薬物療法以外の改善策

- ① 適度に体を動かす。 ② 訴えをよく聞いて不安をとり除く。  
☆ 居室環境の整備や介助を行い転倒に注意する。

その他にも対応や改善策は患者様の状態により様々なものがあります。

不安や疑問に思うことがありましたら、スタッフまでお気軽にお尋ねください。



## 訪問リハビリテーションセンターはしもと

### 訪問リハビリの役割

当センターでは、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれの専門性を活かし、日常生活の自立や趣味の再獲得、利用者様のライフスタイルに合った生活目標を立ててリハビリを提供しています。

生活目標を立てるうえで大切にしていることは、利用者様の「したいこと」に寄り添うことです。

実際に自宅で生活してみると、入院中には気づかなかった問題点や悩みが出てくる場合があります。利用者様とご家族様が安心して暮らせるように、健康状態や運動能力、環境なども含めて具体的な目標を一緒に検討していきます。また利用者様の生きがいや役割となる活動をとともに考え、ご本人様が主体的に選択し生活できるようにサポートしていきます。

#### ① 自主トレーニングの提供



手や足の  
筋力トレーニング

#### ② 動作訓練

実際の環境・道具を活かした練習



調理動作練習



買い物練習

#### ③ 環境調整

(道具を使う、やり方を変える)

道具や環境面での工夫



滑り止めの活用

片手用調理台

## 栄養部

### 脳きらり教室に行ってきました！！

三豊市の一般介護予防事業の一環として開催されている「脳きらり教室」の講師として参加させて頂きました。

毎月バラエティーに富んだ内容で開催されており、11月は「認知症と食生活の関係」ということで、山本町、財田町、豊中町、高瀬町、仁尾町、詫間町、三野町の7町へ行ってきました。

手ばかり法の話（食事の量）やバランスよく食べるための合言葉など、興味を持っていただけるように、食に関するクイズや脳を活性化させるクイズを取り入れました。



### 毎月1日はお寿司の日、毎月16日はお赤飯の日

お寿司は季節によって菜の花のお寿司、じゃこの散らし寿司、金時豆入りのお寿司、栗の甘露煮入りのお寿司、穴子寿司など提供しています。赤飯の日は主菜が夏は天ぷら、冬はお刺身になっています。（感染状況によりメニューを変更する場合がございます）



## 医療安全管理体制委員会

### 安全で快適な入院生活のために ～ 転倒転落を防ぐ～

転倒転落により、骨折や脳出血などの重大な障害が起こる可能性があります。入院生活で転ばないように気を付けたいことが4つあります。

#### ① 病室

- ・ 立ち上がる時は手すり・ベッド柵・杖につかましましょう。  
※ 車輪の付いたオーバーテーブルや点滴スタンドは動くため危険です。
- ・ 滑りにくく、つまずきにくい靴を履きましょう。  
※ スリッパやサンダルは滑りやすく危険です。

#### ② 段差

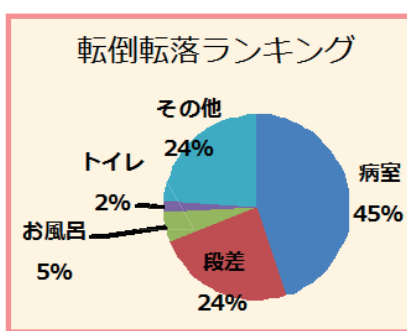
- ・ 段差や隙間には注意しましょう。  
※ 車椅子の車輪は段差にはまりやすいのでゆっくり動きましょう。

#### ③ トイレ

- ・ 夜間トイレに行く際は足元を明るくして移動しましょう。  
※ 暗い場所やしっかり目覚めていない場合はスタッフを呼びましょう。
- ・ ふらつく方、足に力が入りにくい方は、排泄後座ったままの状態呼び出しボタンを押してスタッフをお待ちください。

#### ④ 入浴

- ・ 入浴希望の方は、スタッフへお声掛けください。  
※ 転倒の危険を考え、スタッフが付き添います。



## 栄養管理委員会

### 体重は健康のバロメーター

体重測定は継続的に行う事により、『日常生活での食事・栄養、運動』が適切であるかを簡便に知ることができます。

体重測定は基本的な身体計測ですが、栄養、リハビリテーション介入をするうえで療法が適切であるか、目安を計算するためには、体重の値が必要不可欠です。当院においても、全ての入院患者様を対象に毎週体重測定を行っております。体重減少の傾向にある方へは、普段の体重からどのくらいの期間で何%程度体重が減っているかを確認します。1ヶ月で5%以上、3ヶ月で7.5%以上、6ヶ月で10%以上の体重減少がある方は、中等度以上の栄養障害疑いがあるとされております。



### ご存知ですか

#### ～ 意外と多い低栄養の高齢者 ～

厚生労働省発表による「令和元年度国民健康・栄養調査結果の概要」によりますと、65歳以上の低栄養傾向の方は男性12.4%、女性20.7%であり、85歳以上となると男性17.2%、女性27.9%にもなります。

健康を維持するためには、体重減少を予防することが重要です。まず、体重の管理を行うことから始めてみては如何でしょうか。

◎体重測定のポイントとしては、定期的に決まった時間・同じ条件での測定を継続的に行なうことです。

『人生100年時代』に向け、ぜひ意識して頂きたいと思います

## 防火防災委員会

### シェイクアウトに参加しましょう！

～ 11月2日の訓練風景 ～

#### ■地震の時、どうすればいいのか。 安全確保行動1-2-3とは？

- |                            |                 |
|----------------------------|-----------------|
| 1. <b>Drop (ドロップ)</b>      | = 姿勢を低く         |
| 2. <b>Cover (カバー)</b>      | = 体・頭を守って       |
| 3. <b>Hold on (ホールドオン)</b> | = 揺れが収まるまでじっとして |



・固定されたデスクやテーブルの下に入り、頭を守りましょう。または、腕や荷物で頭を守りましょう。

・揺れが止まるまで動かずじっとしていきましょう。

・揺れがおさまり屋外に出ても安全と判断するまで室内に留まっておきましょう。

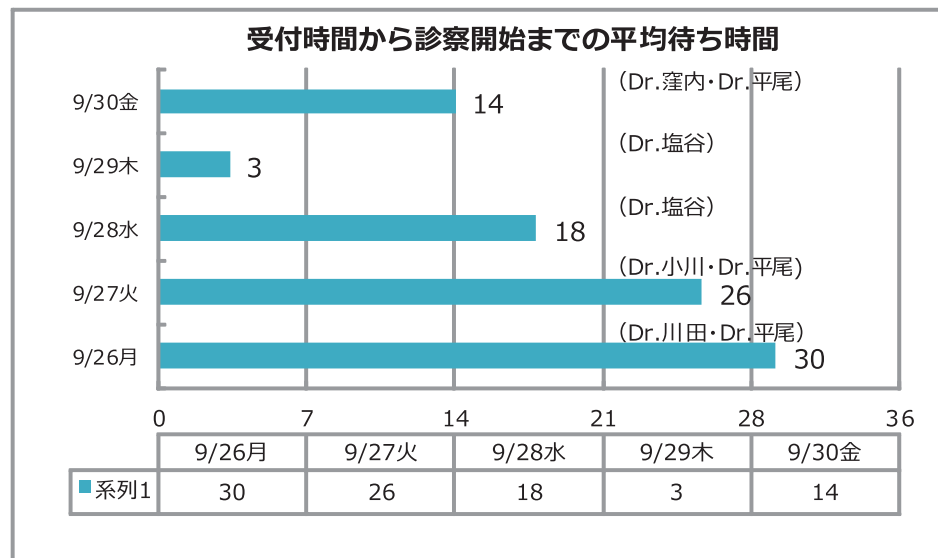


## 患者サービス委員会

### 外来待ち時間調査

患者サービス委員会では定期的に「外来待ち時間調査」を実施しています。病院に行くとき待ち時間が長くて疲れたり次の予定があったりと、大変な経験をした方も多くいるのではないのでしょうか。

当院では少しでも待ち時間の短縮に繋がるよう、待ち時間調査を実施しています。今回は9月に実施した「外来待ち時間調査」をご紹介します。



今回の平均待ち時間は、月曜日の30分が最長でした。連休による混雑や予約時間より早く来院した方、他院への紹介状待ち等によって待ち時間が発生したと思われます。

今後の対策として、健診の方はご予約を頂いていますが、午前中という案内の為、時間を具体的にご案内し、診察までの間に混雑が生じないように努めたいと思います。

## 学会報告

### 第30回 日本慢性期医療学会 参加

開催日：2022年11月17日（木）、18日（金）

場所：国立京都国際会館

発表者：医師2名、看護師5名、薬剤師1名、理学療法士8名、作業療法士5名、言語聴覚士2名、介護支援専門員1名、介護福祉士1名 計25名



本学会は全てのプログラムが現地開催であり、久しぶりの対面での学会参加となりました。

当院からは25名が発表し、リハビリ、ケア、栄養、薬剤における研究発表や、症例発表、活動報告と様々なものであり、いずれの演題も熱量に溢れ、聞きごたえのある内容でした。

その中でも2名が優秀演題賞を受賞するなど、当院の取り組みを評価していただき、大変喜ばしい結果となりました。

参加者それぞれが学会で学んだことを日々の業務に活かし、今後とも、より良い慢性期医療が提供できるように務めてまいります。



## 病院実績

回復期リハビリテーション病棟 合計89床（1病棟29床、2病棟60床）

2022年度 前期 実績

年月	平均在院日数 (日)		発症から入院までの平均日数 (日)					退院患者数及び退院先 (日)				
	1病棟 (29床)	2病棟 (60床)	脳血管		運動器		廃用 症候群	自宅	施設	病院	その他	(合計)
			180日	150日	90日	60日						
4月	76	78	33.0	36.2	25.7	-	42.0	18	9	4	0	31
5月	76	81	55.6	32.2	36.0	46.0	31.0	22	7	6	1	36
6月	88	93	53.2	31.5	34.2	31.5	30.5	12	5	6	2	25
7月	95	91	35.3	37.7	29.8	-	34.5	20	7	4	1	32
8月	95	97	55.4	32.6	30.4	60.0	36.0	14	6	5	4	29
9月	86	86	65.1	52.3	36.7	31.0	19.3	17	7	8	2	34

## 地域連携部

### ～ 事前面談について ～

安心してご入院頂くため、紹介元医療機関のご協力のもと、事前面談を実施しています。面談においては、当院についてのご説明と患者様の状態確認を1時間程度でさせていただきます。

#### 【お伺いする内容】

入院前の生活状況

既往歴

リハビリ目標

#### 【お伝えする内容】

入院生活について

入院の準備物

CSセットについて

入院手続きについて

感染症対策

予約制面会について

お気軽にご連絡  
ください！

地域連携部

窓口：大西 宏美



## 職員募集のお知らせ

募集

看護師・准看護師  
介護福祉士・介護職

☆入職支度金制度あり



まずは、病院見学にお越し下さい！

給与等詳細は、当院ホームページでも閲覧できます。

<http://www.wafukai-hashimoto.jp>

TEL 0875-63-3311（人事担当：竹中）



医療法人社団和風会 橋本病院

〒768-0103

香川県三豊市山本町財田西902番地1

TEL：0875-63-3311

FAX：0875-63-2651

入院相談直通電話：0875-63-3552

E-mail：hashimoto-hp@wafukai-hashimoto.jp

HP：http://www.wafukai-hashimoto.jp

発行元：橋本病院 広報委員会

医療 回復期リハビリテーション病棟 89床  
認知症治療病棟 67床

介護

橋本病院指定居宅介護支援事業所  
通所リハビリテーションセンターはしもと  
訪問リハビリテーションセンターはしもと

